

## 第2回社会情報学シンポジウム

## 「社会情報学を諸学はどう捉えるか」

——従来の諸学・研究は、社会情報学にどう位置づき、どのように関わるか——

日 時：1997年7月19日(土) 13時00分～16時00分

場 所：視聴覚教室

目 的： “社会情報学はなんだかおもしろそうだ！”との声を受けて、第1回社会情報学シンポジウムが開催されてから、まもなく半年になろうとしています。あのときフロアにいて見学を決め込んでいた筆者は、もちろん先生方の様々に刺激的な発表・発言に、色々な意味で感銘を新たにしていました。しかし実は個人的に、非常に印象深く感じられ後々まで記憶に残ったことの一つに、学生として唯一人パネラー参加された、有坂誠氏の次のような意味の発言がありました。「情報また情報概念について深く考えようとする、どうしても哲学や心理学・言語学……が気になってくる。それに〈個人〉の問題が非常に大きく感じられてくる。」

今、社会情報学部には所属している学生諸氏のほとんどは、この学部で初めて大学生になった、つまり社会情報学において初めて学問に出会っているわけでしょう。その中で物事を考えて行く内に、哲学や心理学や要するに従来の諸学の成り立ちが、非常に気になってきたとすれば、素晴らしいことだと思います。それは、社会情報学の開放性・学際性の一つの証明でもあります。またそれは、諸学との双方向的な交流・運動を通じて、社会情報学の内容そのものが、将来において深められてくるであろうことを保証するものでもあるからです。

ところで今、社会情報学部の各講座を構成している教官は、これは例外なく、従来の何らかの諸学を通して、この学部に来てこの学問に出会っています。主にそうした教官諸氏に、「社会情報学を諸学はどう捉えるか—従来の諸学・諸研究は、社会情報学にどのように位置づき、どのようにこれと関わるか—」を語っていただき、それをめぐって討論を試みる。これが、今度のシンポジウムのメインテーマです。

夏休みの初日しかも土曜日ということで、日程的にきついのですが、文字通り万障お繰り合わせの上、ふるってご参加下さい。秋には新棟への移転が始まり、これが旧棟での最後のイベントになるかもしれません。とりわけ、数カ月後に卒

業・就職を予定されている4年生の皆さんには、この企画が、「自分にとって社会情報学とは何であったのか」という問いに対する解答のための、一つのきっかけになれば、と念じています。

## プログラム

司 会：小林修一（助教授、社会・情報行動講座）  
オーガナイザ：山内春光（助教授、社会・情報行動講座）

### 13：00～14：30 パネラー発表

#### 1. 歴史情報論の構図

落合延高（教授、社会・情報行動講座）

#### 2. 行政法学の進化と隣接諸科学への接近

大久保規子（講師、政策・行政情報講座）

#### 3. 近代知批判としての社会情報学は可能か

砂川裕一（助教授、社会情報基礎講座）

#### 4. 「情報」からはみ出すもの—倫理思想研究の立場から

山内春光（助教授、社会・情報行動講座）

#### 5. 理論、というより方法論、あるいは「思想」の弁護

小林 徹（講師、社会・情報行動講座）

### 14：30～14：45 休 憩

### 14：45～15：15 コメンテーター発言

富山慶典（助教授、社会情報基礎講座）

黒須俊夫（教授、社会・情報行動講座）

齋藤隆夫（教授、経済・経営情報講座）

### 15：15～16：00 フロアーとの質疑応答

### 16：00 終 了